重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題（めざすべき姿）	育児についての不安や悩みがない	
施策名	安心して子育てができる環境をつくる	No.3

年度	平成28年度
責任部長	こども部長
主担当課長	子育て支援課長
関係課	保険年金課、健康づくり課、保育課、生涯学習課

1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値	実績値					目標値
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後
育児についての相談相手(場所)があると思う子育て世帯の割合(%)	↗	85.9	92.6	88.2	89.9	90.5	93.1	89.3
		93.1	95.3	91.7	94.0	96.8		92.5
子どもの虐待件数(件)	↘	76	58	26	42	101	128	69
		128	151	207	251	347		59
子どもの虐待に関する通告先を知っている人の割合(%)	↗	ー	ー	ー	ー	ー	ー	ー
		ー	37.3	36.5	36.9	36.4		54.8
子育て支援を行う地域サークル・NPOの数(団体)	↗	17	23	22	21	22	19	21
		19	24	29	33	41		24

2. 外的要因（世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等）

少子化、核家族化の進行に伴う家族形態の変化や人間関係の希薄化により、子育てを行う親の孤立化による虐待は依然として後を絶たない。しかしながら、社会的関心の高まりにより、児童虐待は、初期段階での通告が増加し、比較的軽微な対応ケースが増加している。また、子育てについては、身近で気軽に相談ができ、子育てを行う親同士の交流や子育てに関する情報を共有できる環境の整備、また、働く女性の増加等による一時的な保育困難な方への支援、子どもの養育支援等が必要な家庭に対して積極的に援助していく体制の必要性はいっそう高まっている。

3. めざすべき姿に対する現状評価（まちづくり指標や外的要因等からの評価）

現状評価	**B** 停滞	「育児についての相談相手(場所)があると思う子育て世帯の割合」及び「子育て支援を行う地域サークル・NPOの数」は年により多少の増減はあるものの目標値を達成している。一方、「子どもの虐待件数」は、初期段階での通告の増加によるもので、軽微な事例が増加している。「子どもの虐待に関する通告先を知っている人の割合」については行政において啓発活動を行っているが、横ばい状態であり現状評価は「停滞」とする。

評価がB・Cの場合

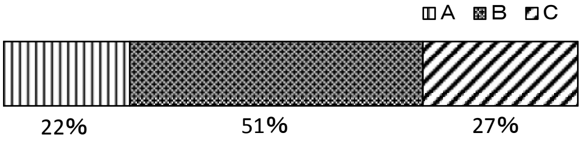
4. 事務事業群に対する評価（行政活動の評価）

長期成果（事業群①）	長期成果（事業群②）	長期成果（事業群③）	長期成果（事業群④）
子育て中の親の精神的不安を解消する環境が整っている。	子育て中の親の経済的負担が軽減されている。	すべての子育て中の家庭への地域ぐるみのサポートがある。	
子育て支援センター事業	子ども医療費助成事業	ファミリー・サポート・センター事業	
動く子育て支援サロン「こっこ」事業	養育医療給付事業	産後ヘルプ事業	
子育て支援情報サイト運用事業	子育て家庭優待事業	養育支援訪問事業	
子育て相談事業	児童手当支給事業	生涯学習支援ボランティア育成事業	
育児相談事業	保育料減免事業		
子ども悩みごと相談事業	要保護児童就園援助事業		
乳幼児健康診断事業			
健康教室(母子)事業			
こんにちは赤ちゃん訪問事業			
児童虐待防止推進事業			

評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の一歩手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。
評価	長期成果の設定は、子育て中の親の「精神的不安の解消」「経済的負担の軽減」「地域のサポート」という切り口で捉えており問題ない。「めざすべき姿」に向けた各種事務事業について「要保護児童就園援助事業」が追加され、より充足している。児童虐待については件数の増加があるものの初期段階での虐待となっており、迅速な対応により改善された件数も増加してきている。横断幕、のぼりなどにより啓発活動も充実してきている。
次年度の改善計画	各事業群に属する事業のうち、本年度「児童虐待防止推進事業」がデータベース化され関係課の情報共有が迅速になる。また、「保育料減免事業」が拡充され無料化の対象が拡大し効果が期待される。「子育て支援情報サイト運営事業」についてもアプリ化も実施、更新される。本年度拡充された事業も含め各事業のPRにより一層努めていく。 【改善】児童虐待防止推進事業、子育て支援情報サイト運営事業

＊＊

市民からみた計画の進捗状況

- ・A判定（改善傾向）　22 ％
- ・B判定（停滞）　51 ％
- ・C判定（悪化傾向）　27 ％